

90
268

司法省民刑局編纂

刑法施行法參考書全

東京 有斐閣書房

90-288

司法部民刑局編纂



刑法施行法參考書全

剛法
41 6 16
内交

東京 有斐閣書房

刑法施行法參考書

刑法施行法ハ刑法ノ適用ヲ圓滑ナラシムル經過法ナリ經過法ノ目的ハ
新舊二法ノ間ニ介在シテ二者ノ齟齬衝突ヲ調和シ以テ舊法ヨリ新法ニ
遷移スルニ付キ支障ヲ感セサラシムルニ在リ故ニ本法ノ定ムル所ハ概
シテ一時的ノ法規ニ屬シ永久其適用アルモノニ非サルナリ今本法ノ規
定スル所ヲ概括スレハ第一刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ裁判ヲ爲ス
ニ當リ刑法第六條ノ趣旨ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ適用スヘキ刑ヲ定ムル
爲メ設ケタル法則第二刑法施行前ニ犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯シタ
ル罪トノ競合ニ關スル法則第三舊刑法ニ依ル刑ノ言渡其他ノ處分刑法
施行前ニ爲シタルモノト刑法施行後ニ爲シタルモノトヲ包含スル刑法

施行後ニ於テ有スル效力ニ付キ設ケタル規定第四刑法以外ノ刑罰法規
ニシテ刑法施行後存続スヘキモノニ關シ其規定ト刑法ノ規定トノ間ニ
存スル抵觸ヲ調和シ以テ刑罰法ノ統一ヲ圖ル爲メ設ケタル規定第五刑
法以外ノ法律ニシテ舊刑法ノ罪名罪別其他總則ノ規定ニ依據スルモノ
ニ付キ其適用ヲ失ハサラシムル爲メ設ケタル法則第六刑法施行ニ必要ナ
ル程度ニ於テ刑事訴訟ニ關スル條項ヲ改正又ハ補足シタル規定是ナリ
刑法ノ施行ニ必要ナルモノ獨リ刑法施行法ニ止ラス監獄法及ヒ裁判所
構成法中裁判所ノ權限ニ關スル改正法律ノ如キ亦之ニ缺ク可ラサルモ
ノナリ而シテ監獄法ノ如キハ其性質一時的ノモノニ非サルカ故ニ其規
定一貫シテ錯雜紛糾ノ狀ナシ反之刑法施行法ニ至リテハ經過法ニ屬ス
ルノ故ヲ以テ其規定スル所廣ク各種ノ事項ニ亘リ其條項ニ至リテハ實
益ヲ主トシ論理ニ拘ハラサルモノ多シ其錯糾ヲ免レサルハ其性質ノ然

二

ラシムル所ニシテ怪ムニ足ラス若シ夫レ新舊法ノ内容ニシテ相隔タル
コト遠カラサレハ比較的簡易ノ經過法ニ依リ過渡時代ニ起ルヘキ問題
ヲ解決スルヲ得ヘシ反之二者全ク其根源ヨリシテ其規定ヲ異ニスルト
キハ種々ノ難問ヲ生シ一層ノ錯雜ヲ加フルコト辯ヲ俟タス刑法ノ改正
スル所ノモノ管ニ末葉ニ止ラスシテ舊刑法ノ轍ヲ去リ一新機軸ヲ出セ
リ即チ舊刑法ノ罪別ヲ廢シ其刑名刑期ヲ改メ新ニ併合罪ノ規定ヲ設ケ
其他勞役場留置ノ處分未遂罪ノ處分累犯ノ處分ヲ定ムルカ如キ一ツト
シテ大革新ナラサルハナク隨テ簡易ノ法則ヲ以テ新舊二法ヲ調和スル
コトヲ得サリシナリ本法ヲ難解ノモノタラシムルノ原由此ニ存ス本法
ハ將來ニ於テ起ルヘキ實例ヲ豫測シ現行法規ニシテ尙モ刑法ノ規定ニ
關係アルモノハ悉ク之ヲ網羅シ之ヲ查覈シタル末制定シタルモノナル
カ故ニ刑法ノ大革新ノ下ニ於テ其運用ノ缺クルナキハ期シテ疑ハサル

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

理由 本條ハ便宜ノ爲メ刑法施行前ニ公布セラレタル成文ノ法規ニシテ第二條以下ニ援用セララルモノノ名稱ヲ定メタルモノナリ。本條ニ所謂刑法施行前ニ公布シタル法律トハ憲法制定ノ前後ニ於テ法律ノ名稱ヲ以テ公布セラレタル總テノ法規ヲ包含ス憲法制定前ニ法律ノ名稱ヲ以テ公布セラレタル法規ヲ例示スレハ明治二十

一年法律第一號市制町村制明治二十二年法律第一號徵兵令ノ如キ是ナリ所謂勅令布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノトハ憲法制定前ニ公布シタル勅令布告ニシテ憲法上ノ法律事項ニ關シ其性質憲法上ノ法律ト同視スヘキモノヲ謂フ例ハ明治二十年勅令第四十二號逃亡犯罪人引渡條例同年勅令第七十五號新聞紙條例明治十年第七號布告賣藥規則明治十五年第四十三號布告徵發令明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ノ如シ

明治十四年第六十九號布告陸軍刑法及ヒ同年第七十號布告海軍刑法ハ文詞上所謂他ノ法律中ニ包含セララルモ此二法ハ特別ノ理由ニ依リ本法ノ適用ヲ受ケサルモノトス陸海軍刑法ハ普通刑法ト獨立シテ罪別ヲ設ケ之ト獨立シテ罪名ヲ定ム即チ此二法ニ定メタル主刑ハ舊刑法ノ主刑ト其名稱ヲ同アスレトモ其實全ク別異ノ刑ナ

ルコト論ヲ俟タス果シテ然ラハ本法第二條ニ定メタル新舊二法ノ
主刑ノ對照ニ關スル法則ヲ之ニ適用スルコト能ハス隨テ本法第十
九條モ之ニ適用セラレサルコトト爲リ延ヒテ第二十條乃至第二十
三條モ亦之ト關係ヲ有セサルニ至ルヘシ第二條ニ定メタル主刑ノ
對照ニシテ陸海軍刑法ニ適用セラレサル以上ハ其刑ト刑法ノ刑ト
ニ亘リテ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用スルコト能ハサ
ルカ故ニ本法第六條乃至第十二條モ亦此二法ト關係ヲ有セサルモ
ノト論セサルヘカラス即チ本法ニ示シタル他ノ法律ナル文詞ハ總
テノ場合ニ於テ陸海軍刑法ヲ包含セサルモノナリ
本條ニ所謂他ノ法律ニハ刑法施行前ニ公布シタル總テノ法令ヲ包
含セシメスシテ之ヲ法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ
有スルモノニ限定シタル所以ハ第十九條ノ存スルカ爲ナリ同條ニ

依レハ他ノ法律ニ掲ケタル罪ニ對シテ定メタル主刑ハ總テ之ヲ刑
法ノ刑名ニ變更スルコトトセリ若シ他ノ法律中ニ法律ト效力ヲ同
フセサル勅令其他ノ命令ヲ含マシムルコトトセハ第十九條ノ規定
アルカ爲メ此等ノ命令中ニ包含セラルヘキ刑罰ハ刑法施行法ナル
法律ヲ以テ規定セラルルコトト爲リ刑法施行後ハ同種ノ命令ヲ以
テ其規定ノ變更ヲ爲ス能ハサルニ至ルヘシ此ニ於テ刑法施行前公
布シタル勅令其他ノ命令ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有セサルモノ
ハ本法ヲ以テ之ヲ支配セス此等ニ付テハ更ニ勅令ヲ以テ刑法施行
法中他ノ法律ニ關スル規定ヲ之ニ準用シ上記ノ不都合ヲ避クルト
同時ニ刑法施行前公布シタル勅令其他ノ命令ヲ本法ニ所謂他ノ法
律ト同視スルヲ得セシメントス

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ

犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑

舊刑法ノ刑

死刑
無期懲役
無期禁錮
有期懲役
有期禁錮
罰金
拘留

死刑
無期徒刑
無期徒刑
有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金
拘留

科料

科料

理由 第二條乃至第七條ハ刑法施行前ニ犯シタル犯罪ニ關スル規定ニシテ刑法施行後ニ於テ刑法施行前ノ犯罪ヲ裁判スルニ當リテハ必ス此等ノ法條ヲ適用セサルヘカラサルモノトス而シテ第二條第三條及ヒ第五條乃至第七條ハ刑法第六條ニ於テ舊法時代ノ犯罪ニハ新舊二法ヲ比照シ輕キ法ヲ適用スル原則ヲ採用シタルニ因リ此原則ヲ活用スル爲メ設ケラレタルモノナリ
本條ハ新舊二法ノ輕重ハ主刑ノ輕重ニ依リ之ヲ定ムルコトトシ又舊刑法ト刑法トハ其刑名ヲ異ニスルカ故ニ新舊二法ノ主刑ノ對照ヲ定メ此對照ニ依テ舊刑法ノ主刑ヲ刑法ノ主刑ニ改メ以テ刑法第十條ニ從ヒ其輕重ヲ定ムルコトトセリ
本條ノ適用ヲ受クヘキ場合ハ刑法施行前ニ舊刑法又ハ他ノ法律ニ

定メタル罪ヲ犯シタル場合ナリ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル場合ハ左ニ掲クル三個ノ場合ニ區別スルコトヲ得ヘシ

(一) 刑法ニ於テ他ノ法律ニ定メタル罪ノ刑ヲ變更シタル場合ニ其罪ヲ犯シタルトキ

例ハ遺失物法第十六條ト刑法第二百五十四條トノ關係、遺職法ト刑法第九十七條及ヒ第九十八條トノ關係ノ如シ

(二) 本法第二十四條ニ掲クル法律ノ罪ヲ犯シタルトキ

本法第二十四條ニ掲クル法律ノ規定ハ一般法ニ對スル特別法ニ屬ス即チ屋外竊盜罪ノ規定ハ刑法ノ竊盜罪ノ規定ニ對スル特別法タリ又議會並議員保護ニ關スル法第二條後段乃至第五條ハ刑法ノ傷害罪及ヒ第九十五條ノ規定ニ對スル特別法タリ而シテ本法第二十四條ヲ以テ是等ノ特別法ヲ廢止シタルカ故

ニ刑法施行後ハ一般法タル刑法ノ規定カ適用セラルルニ至リ刑法ノ規定ト第二十四條ニ掲クル法律ノ規定トヲ對照シテ其輕重ヲ定メサルヘカラス

(三) 本法第二十二條ニ依リ他ノ法律中舊刑法ノ規定ニ依ルコトヲ定メタル罰則ノ罪ヲ犯シタルトキ

例ハ郵便法第五十條及ヒ電信法第三十四條ハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷スト規定ス此規定ハ舊刑法竊盜ノ規定ニ依ルコトヲ定メタルモノナルカ故ニ刑法施行後ハ本法第二十二條ニ依リ刑法ノ竊盜ノ規定ニ變更セラレ隨テ其刑期ニ變更ヲ生ス故ニ變更セラレサル以前ノ刑ト新法ノ刑トヲ對照シテ其輕重ヲ定メサルヘカラス

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量

減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ、
 數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

理由 本條第一項ノ理由ヲ案スルニ本法第二條ニ於テ新舊二法ノ輕重ハ主刑ヲ以テ定ムルコトトシタルモ其主刑ハ各本條ニ定ムル法

定ノ刑ナルヤ將タ總則ヲ適用シ加減シタル刑ヲ謂フヤ不明ナルカ故ニ本條ニ於テ之ヲ解決シ加減シタル主刑ヲ以テ法ノ輕重ヲ定ムルコトトセリ蓋シ輕キ法ヲ適用スルハ犯人ニ對スル恩典ナルカ故ニ總則ノ適用ニ依リ定マリタル結局ノ主刑ニ依リテ法ノ輕重ヲ定メ以テ此恩典ニ依リ享受スヘキ利益ヲ全カラシムル趣旨ニ出テタルモノナリ例ヘハ刑法施行前偽造ニ係ル無記名公債證書ヲ行使シ未タ遂ケサリシ者アルトキハ舊法ニ於テハ舊刑法第二百四條第二項ニ依リ同條第一項ノ刑ニ一等ヲ加ヘ第百十二條及ヒ第百十三條ヲ適用シ既遂ノ刑ニ一等ヲ減シテ此場合ニハ二等ヲ減スルヲ得スト論スル者アリ輕懲役トシ更ニ酌量減輕ヲ爲スヘキトキハ之ニ一等又ハ二等ヲ減シ對照スヘキ刑ヲ定ム又新法ニ於テハ刑法第百六十三條ニ依リ三月以上十年以下ノ懲役ニ該リ此場合ニ於テハ第四十

三條ニ依リ減等スルヲ得スト論スル者アリ更ニ酌減スヘキトキハ第六十六條及ヒ第六十七條第七十一條ニ依リ刑期二分ノ一ヲ減シテ一月十五日以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノト爲ル斯クノ如ク兩個ノ法律ニ從ヒ對照スヘキ刑ヲ定メ前條ニ依リ之ヲ對照スレハ舊法ニ於テ一等ノ酌減ヲ爲シタル場合ニ於テハ新法ヲ輕トシ二等ノ酌減ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊法ヲ輕シト爲ササルヘカラス」第二項ニ從ヘハ數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ各罪ニ付キ刑ノ對照ヲ爲サズシテ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ノ適用ニ因リテ生スヘキ刑ヲ對照シテ輕重ヲ定ム即チ新法ノ適用ヲ試ミルニ當テハ併合罪ノ規定ヲ適用シ舊法ノ適用ヲ試ミルニ當テハ數罪俱發ノ規定ヲ適用シテ科スヘキ刑ノ範圍ヲ發見シタル後對照ヲ爲スヘキモノナリ例ヘハ刑法施行前竊盜罪ト篤疾ニ致シタル毆打創傷罪トヲ犯

シタルトキハ舊法ニ於テハ舊刑法第三百六十六條第三百七十六條第三百條第一項及ヒ第百條ニ依リ毆打創傷罪ヲ重トシ輕懲役ニ處スルコトト爲リ新法ニ於テハ刑法第二百三十五條第二百四條及ヒ第四十七條ヲ適用シ第十條ニ從ヒ竊盜罪ヲ重トシ其刑ノ長期十年ニ半數ヲ加ヘタル十五年ヲ以テ長期トス故ニ前條ニ依リ之ヲ對照スレハ舊法ヲ輕シト爲ササルヘカラス」第三項ニ於テ一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科スヘキトキ又ハ數罪ノ主刑ヲ併科スヘキトキ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲シ他ノ刑ヲ以テ輕重ヲ定ムルノ標準ト爲ササルハ單純ナル方法ヲ以テ對照ヲ爲サシムルコトヲ目的トスルモノニシテ全ク便宜ニ出テタルモノナリ一罪ニ付キ主刑ヲ併科スル場合ハ森林法ニ掲クル竊盜ノ罪刑法第二百五十六條第二項ニ定ムル罪ノ如ク併合罪ノ規定ニ依リ數

罪ノ主刑ヲ併科スル場合ハ刑法第四十八條第一項第五十三條ニ定ムル場合ノ如ク數罪俱發ニ發スル規定ニ因リ數罪ノ主刑ヲ併科スル場合ハ舊刑法第一百一條ノ場合特別法ヲ以テ舊刑法ノ數罪俱發ノ例ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ノ如シ第三項中一罪ニ付キ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキト云フハ撰擇刑ヲ定メタル場合ナリ此場合ニ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲スハ前段示ス所ト同一ノ理由ニ出テタルモノナリ本項ノ適用ヲ受クヘキ場合ヲ例示セシニ

刑法施行前竊盜ノ贓物ヲ故買シタルトキハ舊法ニ於テハ舊刑法第三百九十九條第四百條ニ依リ三年以下ノ重禁錮ニ處スルコトト爲リ新法ニ於テハ刑法第二百五十六條第二項ニ依リ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナリ此場合ニ於テハ新法ニ從

テ科スヘキ兩個ノ刑ノ中十年以下ノ懲役ノ刑ノミニヲ對照スヘキ刑ト爲シ之ト舊法ニ依リ科スヘキ三年以下ノ重禁錮トヲ對照スヘキモノナリ又刑法施行前水利妨害罪ヲ犯シタルトキハ舊法ニ於テハ舊刑法第四百十三條ニ依リ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處スヘク新法ニ於テハ刑法第二百二十三條ニ依リ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナリ此場合ニ於テハ新法ノ撰擇刑中重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ一月以上二年以下ノ懲役ヲ以テ對照刑ト爲ス而シテ此刑ノ對照ニ付テハ前條及ヒ刑法第十條ニ從ヒ其輕重ヲ定ムルコト能ハス此場合ニ於テハ犯罪行爲ノ行レタル時其效力ヲ有シタル舊刑法ヲ適用スヘキヤ將タ新法ヲ適用スヘキヤニ付キ議論ヲ免レサルモ通説ニ依レハ犯罪當時ノ法律ヲ適用スヘキモノト爲ス又刑法施行前竊盜罪及ヒ

賭博罪ヲ犯シタルトキハ舊法ニ於テハ舊刑法第三百六十六條、第三百七十六條、第二百六十一條及ヒ第百條ニ依リ重キ竊盜罪ノ刑即チ二月以上四年以下ノ重禁錮ヲ以テ對照スヘキ刑トス新法ニ於テハ刑法第二百三十五條、第百八十五條及ヒ第四十八條ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科スヘキモノナルモ單ニ重キ刑即チ十年以下ノ懲役ヲ以テ對照刑ト爲ス又刑法施行前公然人ヲ罵詈嘲弄スルノ罪及ヒ人ヲ毆打シテ創傷ニ至ラサル罪ヲ犯ストキハ舊法ニ於テハ舊刑法第四百二十五條第九號、第四百二十六條第十二號及ヒ第百一條ニ依リ此數罪ノ主刑ヲ併科スヘキモ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲スカ故ニ毆打罪ノ刑三日以上十日以下ノ拘留ヲ對照刑ト爲ス又新法ニ於テハ刑法第二百八條、第二百三十二條及ヒ第五十三條ニ依リ主刑ヲ併科スヘキモ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲スヲ以テ一年以下ノ懲役ヲ以テ

對照スヘキ主刑ト爲ス

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

理由 本條ハ舊法時代ニ犯サレタル親告罪ハ新法ニ於テ職權訴追ノ罪ト爲シタルトキト雖モ仍ホ告訴ヲ要スルコトヲ定メタルモノナリ告訴ヲ以テ處罰條件ト爲ストキハ當然本條ノ規定ニ依ルヘキモノナル可シ(反對ノ學說アリ)若シ告訴ヲ以テ訴追ノ條件ト爲ストキハ理論上反對ノ結論ヲ爲ササルヘカラス即チ假令舊法ニ於テ告訴ヲ要スルモ新法ニ於テ之ヲ要セスト爲ストキハ檢事ノ職權ノミニ

因リ之ヲ起訴スルヲ得ヘシ然レトモ此ノ如キハ被害者ノ豫期ニ反シ嚴ニ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ何レノ主義ニ依ルヲ問ハス本條ノ規定ニ從ハサルヘカラス

本條ノ適用ヲ受クル場合ハ頗ル稀ナリ其例ヲ舉クレハ舊刑法第三百二十六條以下ノ脅迫罪ハ刑法第二百二十二條ニ依リ告訴ヲ要セサルニ至リ又明治二十二年法律第二十八號議會竝議員保護ニ關スル法第四條ノ罪ハ刑法第九十五條第二項ニ依リ告訴ヲ要セサルニ至リタル場合ノ如シ(第二條ノ理由參照)

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用

スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

理由

本條ハ新舊二法ヲ對照シ舊法ヲ輕シトシテ適用シタル場合ニ舊法ノ附加刑ハ之ヲ科セサルコトヲ定メタルモノナリ舊法ヲ輕シト認メ之ヲ適用スル場合ニ於テハ舊法ノ刑ヲ言渡ササルヘカラス故ニ本條ノ規定ナキトキハ言渡サレタル舊刑法ノ主刑ニハ剝奪公權又ハ停止公權ヲ附加セラレ又主刑ト共ニ監視、附加罰金ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス然ルニ此等ノ附加刑ハ新刑法ニ依リ全ク廢止セラレ新刑法中ニ對照スヘキ刑ヲ見ス此ノ如ク刑法ノ刑ニ對照スルコトヲ得サル附加刑ヲ刑法實施後ニ至リテ言渡シ之ヲ執行スルハ妥當ナラサルヲ以テ此場合ニハ舊刑法ノ主刑ノミヲ言渡スコトト爲シタリ

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前

又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル

餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

二三

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

理由

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪カ確定裁判ト爲リタル他ノ罪ニ對シテ餘罪ノ關係ヲ有スル場合ニ於テ此餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス

ニ當リ適用ス可キ規定ナリ而シテ本條ハ本法第三條第二項ノ適用ヲ受ケシムルノ趣旨ヲモ包含スルモノニシテ第三條第二項ニ依リ新舊二法ノ刑ヲ對照スル以前ニ本條ヲ適用シ對照ス可キ刑ヲ定ムルモノトス本條ニ規定シタル餘罪及ヒ確定裁判ト爲リタル罪ハ共ニ刑法施行前ニ犯シタルモノナルカ故ニ第三條第二項ニ所謂數罪ヲ犯シタル者ニ該リ此規定ノ適用アリ反之第十條ニ規定スル場合ハ餘罪ハ刑法施行前ニ犯シタルモノナレトモ確定裁判ヲ經タル罪ハ刑法施行後ニ犯シタルモノナルカ故ニ第三條第二項ヲ適用セラシムルコトナシ何トナレハ第三條第二項ニ所謂數罪ヲ犯シタル者トハ刑法施行前ニ數罪ヲ犯シタル意義ナルコトハ第二條ノ規定ニ照シ明ナレハナリ

刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前確定裁判アリタルト

キハ常ニ舊刑法ノ刑ノ言渡アリ又刑法施行前ノ罪ニ付キ刑法施行ノ後確定裁判アリタルトキハ新舊二法ノ比照ニ依リ舊刑法ノ刑ヲ言渡ス場合ト刑法ノ刑ヲ言渡ス場合トアリ確定判決ヲ以テ舊刑法ノ刑ヲ言渡シタル場合ハ本條第一號ニ該リ確定判決ヲ以テ刑法ノ刑ヲ言渡シタル場合ハ本條第二號ニ該ル而シテ確定判決ヲ以テ舊刑法ノ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ其餘罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ノ適用ヲ試ルトキハ何等ノ規定ヲ要セスシテ直チニ第三條第二項ニ依リ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲スコトヲ得ヘシ然ルニ此場合ニ於テ餘罪ニ對シ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ適用ヲ試ルトキハ餘罪ト確定裁判トナリタル罪トハ交モ適用ノ法律ヲ異ニスルカ故ニ新法ニ從テ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキヤ將タ舊法ニ從テ數罪俱發ノ規定ヲ適用スヘキヤ不

明ナリ蓋シ正確ニ論スレハ兩者孰レモ之ヲ適用スルコトヲ得サルナリ是ニ於テ本條第一號ノ如ク併合罪ニ關スル規定ヲ適用スルコトトシ始メテ第三條第二項ノ例ニ依ルコトヲ得セシメタリ例ヘハ明治四十一年二月中犯シタル竊盜罪ニ付キ明治四十一年三月一日重禁錮二年監視六月ニ處スルノ裁判確定シタリト假定シ(刑法施行後ニ於テ舊刑法ヲ輕シトシ茲ニ掲クル刑ヲ言渡シタル場合ト假定スルモ其適用ハ同一ナリ)此受刑者刑法施行後ニ至リ明治四十年十ニ月中強盜罪ヲ犯シタルコト發覺シ此餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ次ノ如ク新舊二法ノ適用ヲ試ミ其刑ヲ對照シ輕キモノヲ定メサルヘカラス即チ強盜罪ハ舊刑法ニ於テハ第三百七十八條ニ該當シ且本法第三條第二項ニ從ヒ舊刑法第百二條ニ依リ輕懲役ニ前發ノ刑重禁錮二年ヲ通算スルニ因リ生スヘキ刑ヲ以テ對照刑ト爲ス新

法ニ於テハ強盜罪ハ刑法第二百三十六條ニ該當シ且本條第一號ニ從ヒ前發ノ竊盜罪ノ刑ヲ通算スルコトナク刑法第五十條ニ依リ更ニ處斷シテ全部ノ刑ヲ科スルコトト爲ルカ故ニ十五年以下五年以上ノ懲役ヲ以テ對照ス可キ刑ト爲ササルヘカラス斯クノ如ク兩個ノ對照刑ヲ定メ本法第二條ニ依リ之ヲ對照スレハ舊法ノ刑ノ輕キコト論ヲ俟タス故ニ此場合ニハ餘罪ニ對シテ舊法ノ正條ヲ適用スヘキナリ

本條第二號モ亦上說スル所ト其趣旨ヲ同ス即チ確定判決ヲ以テ刑法ノ刑ヲ言渡シタル場合ニ餘罪ニ對シテ刑法又ハ之ト刑名ヲ同フスル法令ノ適用ヲ試ルトキハ別段ノ明文ヲ要セスシテ刑法併合罪ノ規定ヲ適用スルヲ得ヘク隨テ直チニ第三條第二項ニ依ルコトヲ得レトモ餘罪ニ對シ舊刑法又ハ他ノ法律ノ適用ヲ試ルトキハ本條

第二號ノ明文アルニ因リ始メテ第三條第二項ノ例ニ依ルコトヲ得ヘシ例ヘハ明治四十一年一月中偽造貨幣ヲ收受シテ未タ行使セサル者刑一五〇條舊一九〇條二項刑法施行後ニ於テ輕キ新法即チ刑法第百五十條ニ依リ三年ノ懲役ニ處セラレタリ然ルニ其後ニ至リ明治四十年三月中犯シタル私書偽造行使罪アルコト發覺シ此餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ次ノ如ク新舊二法ヲ對照スヘキモノトス新法ニ於テハ右私書偽造行使罪ハ刑法第百五十九條ニ該リ且同第五十條ニ依リ前發ノ偽造貨幣取受罪アルニ拘ハラス更ニ本罪ニ付キ處斷スヘキカ故ニ本法第三條第二項ニ從ヒ三月以上五年以下ノ懲役ヲ以テ對照スヘキ刑ト爲ササルヘカラス舊法ニ於テハ舊刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該リ本條第二號ニ從ヒ舊刑法第百二條ヲ適用シ前發刑タル三年ノ懲役ヲ通算セサルヘカラス即チ

長期四年ノ重禁錮ヨリ前發ノ刑三年ノ懲役ヲ控除シタルモノヲ以テ對照ノ刑ト爲スヘキモノナリ斯クノ如クシテ定メタル兩個ノ對照刑ヲ第二條ニ從ヒ對照スレハ舊刑法ノ刑ノ輕キコト明ナリ故此場合ニ於テ餘罪ヲ處斷スルニハ舊刑法ノ正條ヲ適用スヘキモノナリ而シテ之ヲ處斷スルニ當リテ舊法ノ刑ニ新法ノ刑ヲ通算スルニハ本法第二條ニ定ムル對照ノ規定ニ準據スヘキモノトス

本條第一號ノ場合ニ併合罪ニ關スル規定ヲ準用シ第二號ノ場合ニ數罪俱發ニ關スル規定ヲ準用シタルハ便宜ニ出タルモノニシテ別ニ理論上ノ根據アルモノニ非ス

本條第七條及ヒ第九條第二項ニ所謂刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令中ニハ本法第十九條ニ依リ刑名ヲ變更セラレタル他ノ法律及ヒ刑法施行後新ニ公布セララルヘキ刑罰法令ヲ包含シ何レモ刑法

ノ刑名ヲ以テ刑罰ヲ定メタルモノナリ

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期

懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

理由 本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪カ既ニ確定裁判ヲ經タル他ノ罪ニ對シ再犯ノ關係ヲ有スル場合ニ於テ其再犯ノ罪ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リ適用ス可キ規定ナリ而シテ本條ハ本法第三條第一項ノ適用ヲ受ケシムルノ趣旨ヲモ包含シ第三條第一項ニ依リ新舊二法ノ刑ヲ對照スル前ニ本條ヲ適用シテ對照ス可キ刑ヲ定ムルモノトス故ニ本條モ亦第六條ト均シク第二條及ヒ第三條第一項ト共ニ適用セララルヘキモノナリ

本條各號ノ場合ハ刑法施行前舊刑法ノ刑ヲ言渡サレ其裁判確定シタルトキニノミ適用アルモノトス而シテ本條第一號ニ掲クル者ハ刑法第五十六條第一項ニ相當シ第二號ニ掲クル者ハ同條第二項ニ

相當スルモノナリ斯ル確定判決ヲ受ケタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル罪即チ有期徒刑重懲役輕懲役又ハ重禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ於テ此再犯ノ罪ニ付キ新舊二法ヲ對照セシカ爲メ舊刑法ノ適用ヲ試ルトキハ直チニ舊刑法第九十一條又ハ第九十二條ニ依リ再犯加重ヲ爲シタル上本法第二條及ヒ第三條第一項ニ基キ刑ノ對照ヲ爲スヲ得ヘシ然レトモ再犯ノ罪ニ刑法ノ適用ヲ試ルトキハ再犯ノ罪ノ刑ト再犯加重ノ原因タル確定判決ノ刑トハ其刑名ヲ異ニスルカ故ニ舊刑法ノ再犯加重ノ規定モ又刑法ノ累犯ノ規定モ之ニ適用スルコト能ハス蓋シ舊刑法第九十一條及ヒ第九十二條ニ於テ再犯重罪又ハ輕罪ニ該ル時ト稱スルハ舊刑法ノ刑ヲ適用スル場合ニ於テノミ謂フヲ得ヘク刑法第五十六條ヲ此場合ニ適用スル能ハサルコト論ヲ俟タサル所ナレハナリ此ニ於テ本

三三
條ハ之ニ累犯ニ關スル規定ヲ準用シテ對照刑ヲ定ムルコトトシ第
三條第一項ノ適用ヲ受ルコトヲ得セシメタリ例ヘハ刑法施行前舊
刑法ノ徒刑重懲役輕懲役又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者其執行
ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ在ルモノ刑法施行
前ニ於テ更ニ竊盜罪ヲ犯シタリ此竊盜罪ニ付キ刑法施行後裁判ヲ
爲ストキハ次ノ如キ適用ヲ爲ササルヘカラス即チ舊法ニ於テハ舊
刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ該リ本法第三條第一項ニ從
ヒ舊刑法第九十二條ニ依リ一等ヲ加ヘ五年以下ノ重禁錮ヲ以テ對
照ノ刑ト爲ササルヘカラス新法ニ於テハ刑法第二百三十五條ニ該
リ本條第一項ノ規定ニ從ヒ同第五十六條第一項及ヒ第五十七條ヲ
準用シ長期ヲ二倍トシ本法第三條第一項ニ從ヒ此二十年以下ノ懲
役ヲ以テ對照ノ刑ト爲ス斯クシテ第二條ニ從ヒ對照スレハ舊刑法

ノ輕キコト明ナルカ故ニ之ヲ適用シテ處斷スヘキモノナリ
本條ノ場合ハ總テ刑法累犯ノ規定ニ準シタルカ故ニ本條第二項ハ
其當然ノ結果トシテ規定シタル所ナリ即チ舊法ノ數罪俱發ノ例ニ
依リ處斷シタル場合ニ於テ數罪中徒刑懲役又ハ重禁錮ニ處スヘキ
罪アリシトキハ其罪最重ノモノニ非サリシトキト雖モ仍ホ之ヲ累
犯ノ基礎ト爲ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯
シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合
ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適
用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數
罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

理由 本條乃至第十二條ハ刑法施行前犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯

シタル罪ト競合シタル場合ノ處分ヲ規定シタルモノナリ即チ第八條及ヒ第九條ハ是等ノ罪カ同時ニ裁判セララルル場合ニ付キ第十條及ヒ第十一條ハ是等ノ罪カ餘罪ノ關係アル場合ニ付キ第十二條ハ再犯ノ關係アル場合ニ付キ規定セリ而シテ何レノ場合ニ於テモ舊刑法ニ依ラスシテ刑法ニ定メタル併合罪又ハ累犯ニ關スル規程ヲ準用スヘキモノト爲ス

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪一個ナル場合ニ付キ規定シ其數個アル場合ハ第九條ニ之ヲ規定ス本條ノ適用ヲ受クヘキ場合ヲ例示センニ

刑法施行前強盜罪ヲ犯シ刑法施行後公務所及ヒ他人ノ印章ヲ偽造スル罪(刑法第六十五條第一項同第六十七條第一項)ヲ犯シ同時

ニ裁判スル場合ニ於テハ強盜罪ニ對シ舊法ヲ輕トシ舊刑法第三百七十八條ヲ適用シタルトキニ於テモ本條ニ從ヒ刑法第四十七條ニ依リ重キ強盜罪ノ刑ノ長期六年ニ半數ヲ加ヘタル九年ノ輕懲役ヲ以テ長期トシ其範圍内ニ於テ刑ヲ言渡ササルヘカラス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯

シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ

刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

理由 本條ヲ前條ヨリ分離シテ規定シタル所以ハ刑法施行前ノ罪數個アル場合ニ於テハ本法第三條第二項ノ適用アルカ爲メ前條ノ場合ノ如ク單純ナル處置ニ出ル能ハサルカ故ナリ

刑法施行前ノ罪數個アルトキハ之ニ對シ本法第二條及ヒ第三條第二項ヲ適用シ以テ刑ノ對照ヲ爲ササルヘカラス而シテ舊法ノ輕キコトヲ認メ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スルニ至リタルトキハ本條第一項ニ依ルヘク又新法ノ輕キコトヲ認メ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用スルニ至リタルトキハ本條第二項ニ依ルモノトス

本條第一項ニ依レハ刑法施行前ノ罪ニ舊法ヲ輕シトシ適用スルトキハ第三條第二項ニ從ヒ數罪俱發ノ規定ヲ適用シタル結果トシテ一ノ重キ罪定マルカ故ニ此重キ一罪ト刑法施行後ノ罪トニ對シ併合罪ノ規定ヲ準用ス例ヘハ刑法施行前強盜罪及ヒ竊盜罪ヲ犯シ刑法施行後詐欺取財及ヒ贓物故買罪ヲ犯シタルトキハ刑法施行前ノ二罪ニ付キ舊刑法ヲ輕シトシテ之ヲ適用スヘキヤ論ヲ俟タス此場合ニ舊刑法ヲ適用シ其第百條ニ依リ重キ強盜罪ヲ以テ論シ此強盜罪ト刑法施行後ノ詐欺取財及ヒ故買罪ニ對シ刑法第四十七條ヲ準用シ重キ故買罪ノ長期ニ半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期ト爲ス
刑法施行前ノ罪ニ對シ新法ヲ輕シトシテ之ヲ適用シタルトキハ第三條第二項ニ依リ刑法施行前ノ數罪ニ對シテ併合罪ノ規定ヲモ適用スヘキモノナリ此ノ如ク刑法施行前ノ罪ニ併合罪ノ加重ヲ爲シ

タル上更ニ刑法施行後ノ罪ト共ニ併合罪ノ規定ヲ適用シ再ヒ加重
 ヲ爲ストキハ併合罪ノ規定ハ二重ニ適用セラレ加重相累リ酷ニ失
 スルノ嫌アリ故ニ本條第二項ハ刑法施行前ノ數罪ニ新法ヲ適用シ
 タルトキハ併合罪ノ規定ニ依リ一個ノ刑ニ併合セラルヘキ數罪ヲ
 分解シテ數個獨立ノ罪ト爲シ此數罪ト刑法施行後ノ罪トニ對シ併
 合罪ノ規定ヲ準用スルコトセリ第二項ハ一見不必要ナルカ如キ
 モ以上ノ趣旨ニ依リ之ヲ要スルニ至レルモノナリ例ヘハ刑法施行
 前人ノ住居セサル家屋ニ放火シタル罪刑法第九十九條第一項舊刑法
 第四百三條及ヒ官吏職務抗拒罪刑法第九十五條舊刑法第三百十九
 條ヲ犯シ刑法施行後竊盜罪及ヒ詐欺取財罪ヲ犯シタルトキ刑法施
 行前ニ犯シタル二罪ニ付キ刑法ヲ適用シタリトセハ此二罪ト刑法
 施行後ニ犯シタル二罪ニ對シ刑法第四十七條ヲ適用シ重キ放火罪

ノ長期ニ半數ヲ加ヘタルモノ(第十四條ニ依リ二十年ニ制限セラル)
 ヲ以テ長期ト爲ス

刑法施行前ノ數罪又ハ刑法施行後ノ數罪カ特別法ノ規定ノ適用ニ
 依リ舊刑法數罪俱發ノ例ヲ用キサル場合又ハ刑法併合罪ノ例ヲ用
 キサル場合ニ於テハ前條及ヒ本條ノ適用ナク各罪ニ對シ獨立シテ
 其刑ヲ科スヘキモノナリ

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリ

タル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス
 場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタ
 ルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併
 合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

理由 本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪カ刑法施行後ニ犯サレ且確定
四〇
裁判ヲ經タル罪ニ對シ餘罪ノ關係ヲ有スル場合ニ付キ規定シタル
モノナリ此餘罪ニ對シ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法
令ヲ適用シタルトキハ別段ノ規定ヲ要セスシテ直チニ刑法第五十
條及ヒ第五十一條ヲ適用スルヲ得ヘシ然レトモ餘罪ニ付キ舊法ヲ
輕シト認ムルトキハ舊刑法第百二條モ刑法第五十條モ之ニ適用ス
ルコト能ハス餘罪ハ舊刑法ノ刑ニ該リ確定裁判ヲ經タル罪ハ刑法
ノ刑ニ該レハナリ本條ハ此場合ニ於テ便宜ノ爲メ併合罪ニ關スル
規定ヲ準用スヘキモノト爲シタルカ故ニ刑法第五十條及ヒ第五十
一條ニ從ヒ其刑ヲ言渡シ且執行ス可キモノトス例ヘハ刑法施行後
竊盜罪ニ付キ懲役七年ニ處セラレタル者刑法施行前ニ贓物故買罪
(刑法第二百五十六條第二項舊刑法第三百九十九條ヲ犯シタルコト

發覺シ之ニ對シテ裁判ヲ爲ストキハ舊法ノ輕キコト明ニシテ舊刑
法第三百九十九條ヲ適用スルモ尙ホ刑法第五十條ニ依リ處斷シ贓
物故買ニ對シテ全部ノ刑ヲ科シ第五十一條ノ制限ヲ超ヘサル範圍
ニ於テ兩個ノ刑ヲ執行ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後
確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付
キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊
刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘
罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

理由 本條ハ刑法施行前ニ犯サレ且刑法施行後ニ至リテ確定裁判ヲ
經タル罪ニ對シ刑法施行後犯サレタル罪カ餘罪ノ關係ヲ有スル場

合ヲ規定ス若シ其餘罪カ刑法施行前ニ犯サレタル罪ナルトキハ本
條ニ關係ナク第六條ヲ適用スヘキモノナルヤ明ナリ又本條ノ場合
ニ於テ確定裁判ヲ經タル罪ニ刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メ
タル法令ヲ適用シタルモノナルトキハ別段ノ規定ヲ要セスシテ刑
法施行後ノ餘罪ニ對シ刑法第五十條及ヒ第五十一條ヲ適用スルヲ
得ヘシ然ルニ確定裁判ヲ經タル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シ
タルモノナルトキハ其餘罪ニ對シ舊刑法第百二條モ刑法第五十條
及ヒ第五十一條モ適用スル能ハサルカ故ニ本條ヲ以テ之ニ對スル
處分ヲ定メ刑法第五十條及ヒ第五十一條ヲ適用スルコトトセリ例
ヘハ明治四十一年一月中犯シメル竊盜罪ニ付キ刑法施行後舊刑法
ニ依リ重禁錮三年ニ處セラレタル者仍ホ刑法施行ノ時ヨリ右確定
判決アルマテノ間ニ於テ私書偽造行使罪ヲ犯シタルコト發覺シタ

第五十條

第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行

後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル
規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

理由 本條ハ確定裁判ニ依リ舊刑法ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者刑法施
行後再犯ヲ爲シタル場合ニ刑法累犯加重ノ條件ヲ具フルトキハ之
ニ累犯ノ規定ヲ準用スルコトヲ規定セリ本條ニ依リ累犯ノ規定ノ
準用ヲ受クヘキ者ハ第七條第一項各號ニ記載シタル者ニシテ其刑
法施行前ニ舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ處罰セラレタル者ナルト刑
法施行後裁判セララルルニ當リ舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ處刑セラ

ルトキハ刑法第五十條ニ依リ私書偽造行使罪ニ對シテ全部ノ刑ヲ
言渡シ且第五十一條ノ制限ニ從ヒ兩個ノ刑ヲ執行ス

レタル者ナルトヲ問ハス例ヘハ明治三十九年一月十日竊盜罪ニ依
リ重禁錮一年監視六月ノ刑ニ處セラレタル者刑法施行後右重禁錮
ノ執行ヲ終リタル日ヨリ五年内ニ更ニ竊盜罪ヲ犯シタルトキハ刑
法第五十六條第五十七條ニ依リ刑法第二百三十五條ノ長期十年ノ
二倍ヲ以テ長期トシ處斷ス而シテ右刑法施行前ニ犯シタル竊盜罪
ニ付キ刑法施行後舊刑法ヲ輕トシテ重禁錮一年ノ刑ニ處セラレタ
ル場合ニ於テモ其適用ハ同一ナリトス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法
令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行假出獄及ヒ
時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ
完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ

於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ
爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一
號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ
舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル
時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ
關スル規定ニ從フ

理由 本條乃至第十八條ハ舊法ニ依リ爲シタル刑ノ言渡其他ノ處分
(刑法施行前ニ爲シタルト其後ニ爲シタルトヲ問ハス)カ刑法施行後
其效力ヲ有スル場合ニ於テ之ヲシテ刑法ト其軌ヲ同フセシムルヲ
以テ主眼ト爲ス

本條ハ舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ新律綱領改定律例等舊律ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテ刑法施行後ニ亘リ其刑ノ執行ヲ爲スヘキモノナルトキハ刑法ノ規定ヲ準用シテ其執行假出獄及ヒ刑ノ時効ニ關スル取扱ヲ爲スヘキコトヲ規定ス是レ刑法施行後ニ於テ新舊二様ノ刑ノ執行ヲ存スルカ爲メ實行上錯雜ヲ生スルノ不便ヲ避クルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

監獄法第一條ハ懲役監禁錮監及ヒ拘留場ヲ以テ刑法ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スヘキ場所ト爲スト雖モ本條ノ規定アルカ爲メ舊刑法又ハ舊刑法施行以前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ヲモ是等ノ監獄ニ拘禁スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テ如何ナル受刑者ヲ如何ナル監獄ニ拘禁スルヤハ本法第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ニ於ケル主刑ノ對照例ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス又本

條アルカ爲メ罰金科料等ノ徵收ニ付テハ刑法施行後ハ本法第五十條ニ於テ規定スルカ如ク強制執行ノ手續ヲ爲スヲ得ヘク罰金科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ勞役場ニ留置セサルヘカラス然ルニ刑法第十八條ニ依レハ勞役場ノ留置ハ刑ノ言渡ト共ニ之ヲ言渡スヘキモノト爲シタルモ舊刑法ノ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ同時ニ勞役場留置ノ言渡ヲ爲スコトナキカ故ニ本條第一項但書ノ規定ヲ必要ト爲スニ至レリ

本條ノ規定アルカ爲メ舊刑法又ハ舊律ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ假出獄ニ關スル刑法第二十八條乃至第三十條第一項ノ規定及ヒ監獄法第六十四條第六十六條第六十七條ノ規定ヲ準用スルヲ得ヘク又時効ニ關スル刑法第三十一條乃至第三十四條ヲ準用スルヲ得ルナリ但刑法第三十二條ノ時効ノ起算點刑法施行前ニアルトキハ

刑ノ言渡確定シタル後ヨリ起算スルニ非スシテ本條第三項ノ規定アルカ爲メ舊刑法第六十一條及ヒ第六十二條ニ依リ起算ス可キモノトス

本條ノ適用ヲ受ク可キ者ハ刑法施行前ノ罪ニ付キ處刑セラレタル者ナルコト勿論ニシテ其刑ノ言渡ハ刑法施行前ニ於テ爲シタル場合ト刑法施行後裁判ヲ爲スニ當リ舊刑法ノ刑ニ處シタル場合トアリ而シテ本條ハ兩個ノ場合ニ均シク適用セラレヘキモノニシテ其間ニ區別ヲ存スルコトナシ

本條第三項ハ時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付キ舊法ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ定ム本項ハ刑法第三十四條ト舊刑法第六十二條トカ刑ノ時効ノ中斷原因ニ關スル規定ヲ異ニスルカ爲メ之ヲ設クルノ必要アリ即チ刑法施行前ニ於テ逮捕狀ヲ發シタルモ未ダ捕ニ

就カサル者ニ對シテハ舊刑法ハ時効ヲ中斷シ新刑法ハ之ヲ中斷セス隨テ本條第一項ヲ其儘ニ適用スレハ舊刑法ニ從ヘハ時効ニ罹ラサルニ拘ハラヌ刑法ニ從ヒ時効完成スルモノト認メラルル場合ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ本項ヲ以テ時効ノ中斷ニ付テハ舊刑法ニ依リ生シタル中斷原因ノ效力ヲ存スヘキモノト爲ス舊刑法前ノ舊律ニ於テハ刑ノ時効ニ關スル規定ヲ設ケサルヲ以テ第三項ノ規定ヲ之ニ適用スルコトヲ得ス故ニ時効期間ノ起算及ヒ中斷ニ付テモ第一項ノ趣旨ニ從フヘキモノトス

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖

モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

理由 本條ハ刑法施行前ノ罪ニ付キ刑法施行後ニ於テ之ヲ裁判スルニ當リ舊法ヲ輕シトシ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ニ對シ仍ホ刑法ノ規定ヲ準用シテ刑ノ執行猶豫ヲ言渡スコトヲ得セシメ以テ新法ニ於ケル執行猶豫ノ恩典ヲ舊刑法ノ刑ニ及ホサシメタルモノナリ而シテ新法ニ定メタル執行猶豫ノ言渡ヲ爲ス以上ハ其取消及ヒ效力ニ付テモ亦新法ノ規定ヲ準用スヘキモノナルコト論ヲ俟タス

既ニ刑法施行前ニ於テ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ハ本法第五十八條ニ依リ處分スヘキモノニシテ本條ノ關スル所ニ非ス

本條第二項ハ舊法ノ刑ヲ第二條ノ例ニ依リ新法ノ刑ニ對照スヘキコトヲ定ム刑法第二十五條ニ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ云々其執行ヲ猶豫スルコトヲ得トアリ故ニ言渡スヘキ舊刑法ノ刑ヲ新法ノ刑ニ對照シテ果シテ言渡スヘキ刑ハ新法ニ

於テ執行ヲ猶豫スヘキ懲役又ハ禁錮ニ相當スルヤ否ヤヲ定ムルノ必要アルモノトス

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉

ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

理由 本條第一項ヲ規定シタルハ刑法施行前既ニ假出獄ヲ許サレタ

ル者ニ付テハ舊刑法ノ假出獄ノ規定ニ依ラシメスシテ刑法ノ假出獄ノ規定ニ從ハシメ又刑法施行前幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ舊刑法ニ定メタル免幽閉ノ規定ニ依ラシメスシテ刑法ノ假出獄ノ規定ニ從ハシムルヲ便宜ト認メタルニ由ル(第十三條第一項ハ本條ノ場合ニ適用セラレサルカ故ニ本條ヲ設クルノ必要アリ)

本條第二項ハ舊刑法ノ換刑處分ハ刑法施行後之ヲ換刑處分トシテ存續セムルコトナク勞役場ノ留置トシテ之ヲ取扱ヒ且刑法第三十條第二項ヲ準用シ假ニ出場セシムルコトヲ得セシメタル規定ナリ蓋シ換刑處分ノ執行ハ之ヲ刑ノ執行トシテ本法第十三條第一項ヲ適用スルコト能ハサルカ故ニ本項ヲ規定スルノ必要アルモノナリ」換刑處分ハ一圓ヲ一日ニ折算シ二年ヲ超ユルコトヲ得サルモ勞役場留置ノ日數ハ刑法第十八條第一項乃至第三項ニ依リ一層短縮セ

ラレタルカ故ニ本條第二項但書ヲ以テ其期間ハ刑法ニ從ヒ換刑命令ヲ執行シタル日ヨリ起算シ留置ニ關スル制限期間ヲ超ユルコトヲ得サルコトトセリ是レ舊刑法ニ於ケル換刑處分ノ最長期間内之ヲ留置スルノ必要ヲ認メサルカ故ナリ斯ノ如ク換刑處分ヲ受ケタル者ハ期間短縮ノ點ニ於テ利益アリト雖モ其短縮セラレタル結果トシテ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ハ一圓ト一日トノ割合ト爲ラスシテ刑法第十八條第六項及ヒ第七項ヲ適用スルニ當リ控除スヘキ日數又ハ殘日數ニ對スル納付金額割合ヲ増加スルニ至ルヘシ

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又

ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

五四

理由 懲治場留置ノ言渡ハ刑法ニ於テ之ヲ廢止シタルモ仍ホ刑法施行前ニ於テ懲治場留置ノ言渡ヲ爲シ刑法施行後ニ亘リ其執行終了セサルモノアリ本條ハ是等ノモノニ付キ刑法施行後ニ於テモ亦刑法施行前ト同シク懲治場留置ノ執行ヲ爲スヘキモノトセリ監獄法附則第二項但書ニ於テ監獄則中懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有スルコトト爲シタルハ此理由ニ基クモノナリ又假出場規則ハ刑法施行後ニ於テモ猶ホ其效力ヲ有シ其適用アルヘキコト論ヲ俟タサル所ナリ本條但書ハ可成速ニ懲治處分執行ノ終了スルコトヲ期スル爲メ規定シタルモノナリ

第十七條 闕席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

理由 刑法ハ闕席判決ヲ認メサルモノノ如シト雖モ其運用ニ至リテハ暫ク現行刑事訴訟法ヲ以テシ刑事訴訟法ニ於テ闕席判決ノ制度ヲ認ムル以上ハ刑法施行前ニ於ケルカ如ク刑ノ時効ハ闕席判決言渡ノ日ヨリ進行スルコトト爲ササルヘカラス是レ本條ニ於テ舊刑法第六十一條ト同一ノ規定ヲ爲シタル所以ナリ

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但旣ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス
ル附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

理由 本條ハ判決ニ依テ科セラレタル附加刑ノ效力ヲ失フコトヲ規

定ス刑法ニ於テ本條ニ掲クル附加刑ヲ認メサルヲ以テ舊刑法ニ依
リ爲シタル言渡モ亦之ニ符合セシメ劃一ヲ圖ルカ爲メ本條ヲ設ク
即チ本條ハ本法第五條ト其理由ヲ同フスルモノナリ
附加罰金ノ言渡ハ其效力ヲ失フカ故ニ之ニ換ヘタル禁錮ニ付テモ
同一ノ取扱ニ出ツヘキハ當然ノ事ニ屬ス既ニ納付シタル附加罰金
ハ之カ爲メ返還スルコトヲ得サルハ溯テ結了シタル處分ヲ動ササ
ルノ趣旨ニ出ツルモノナリ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準
シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單
ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス
他ノ法律ノ規定中剝奪公權停止公權監視及ヒ附加ノ

罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

理由 本條乃至第二十七條ハ刑法以外ノ刑罰法規ニ關スルモノナリ
是等ノ刑罰法規ハ刑法ノ規定ニ符合セシムルカ爲メ他日其規定ヲ
改正シ以テ刑名刑期ノ範圍法則適用ノ範圍等ニ付キ刑法ノ規定ト
均衡ヲ得セシメ刑罰法規全體ニ亘ル統一ヲ圖ラサルヘカラス又刑
法制定ニ當リ其規定ヲ特別法ニ讓リタル特種ノ犯罪ニ付テハ新ニ
之カ規定ヲ爲スノ必要アリ然レトモ是等ノ刑罰法規ノ改正又ハ制
定ノ完成スルコトハ幾年ノ後ナルヤ知ルヘカラサルカ故ニ本條乃
至第二十七條ニ於テ假ニ刑法ニ符合セシムル爲メ應急ノ措置ヲ爲
シタリ故ニ各種刑罰法規ノ改正又ハ制定行ハルルニ從ヒ本條乃至
第二十七條ハ漸次其適用ヲ失フニ至ルヘキナリ
本條ハ刑法以外ノ刑罰法規ニ定メタル舊刑法ノ主刑ノ刑名ヲ刑法

ノ刑名ニ變更シ又附加刑ニシテ刑法ニ認メサルモノハ之ヲ廢止シタルモノナリ本條ノ適用ヲ受クヘキ刑法以外ノ刑罰法規ハ刑法ノ規定ニ因リ廢止セラレサルモノニ限ル刑法ニ因リ其規定カ廢止セラレタル刑罰法規ハ刑法第六條ノ適用ヲ受クルニ止リ本條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス其他ノ刑罰法規ハ刑法ニ觸ルル所ナク其施行後ニ於テモ存在スルカ故ニ其定ムル主刑ノ刑名ヲ刑法ノ刑名ニ變更シ刑法ニ符合セシムルノ必要アリ

本條第一項但書ノ適用又ハ準用ヲ受クヘキモノハ大略左ノ如シ
一明治二十三年法律第八十四條中一年以下ノ禁錮ニ處ストノ規定
二明治二十三年勅令第二百八號第一條中二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得トノ規定

三河川法第五十八條及ヒ砂防法第四十一條中一年以下ノ禁錮ノ罰

則ヲ設クルコトヲ得トノ規定

四鑛業法第一百五條、蘆病豫防法第二十七條及ヒ遠洋漁業獎勵法第九條中禁錮ノ刑ニ處スルヲ得ストノ規定

本條第二項ニ於テ剝奪公權停止公權ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノ云々ト規定スルモ刑罰法規中直接ニ斯ル規定ヲ爲シタルモノナシ故ニ此規定ハ刑法以外ノ刑罰法規中重罪ノ刑ヲ定メタルモノニ付テハ自ラ舊刑法第三十一條ノ適用アルヘキ趣旨ヲ含ミ又禁錮ノ刑ヲ定ムルモノニ付テハ自ラ舊刑法第三十三條ノ適用アルヘキ趣旨ヲ含ムヲ以テ此趣旨ヲ廢止スルノ意ニ出テタルモノトス
法令中人ノ資格ニ關スル規定ヲ設ケタルモノニハ舊刑法ニ定メタル剝奪公權停止公權ノ規定以外ニ資格喪失ニ關スル法規ヲ存スルモノアリ又本法第三十三條乃至第三十七條ノ規定存スルカ故ニ刑

罰法規ヨリ剝奪公權及ヒ停止公權ヲ除去スルモ毫モ支障ヲ生セス又監視ハ刑法ニ於テ之ヲ廢止シタルヲ以テ他ノ刑罰法規中ヨリモ其規定ヲ除カサルヘカラサルハ當然ナリ獨リ附加罰金ニ付テハ第二十條ノ規定アル以上ハ之ヲ主刑罰金ニ變更シテ之ヲ適用シ以テ刑罰法規ニ定メタル刑ノ均衡ヲ得セシムルヲ至當トスト説ク者アリ然レトモ自由刑ト併科スル罰金ハ其金額少ナキトキハ何等ノ效驗ナキモノニシテ現ニ刑法第二百五十六條第二項ノ如キモ千圓以下ノ罰金ヲ併科ス然ルニ刑罰法規中附加罰金ノ金額ハ實ニ少額ニシテ之ヲ主刑トシテ併科スルノ價值ナク其實益ヲ存セサルヲ以テ之ヲ廢止シタリ

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定

メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

理由 本條ハ刑法以外ノ刑罰法規ニ付キ其定ムル刑期金額ヲ變更セサルコトヲ規定セリ舊刑法ノ刑ト刑法ノ刑トハ其期間金額ヲ同フセス刑法ニ於ケル有期ノ懲役又ハ禁錮ハ其短期一月ナルニ之ニ相當スル舊刑法ニ於ケル重禁錮又ハ輕禁錮ハ短期十一日ナリ又刑法ノ罰金ハ二十圓以上トシ舊刑法ノ罰金ハ二圓以上トス又拘留科料ニ付テモ新舊ノ二法其期間金額ヲ異ニス既ニ本法第十九條ニ依リ刑罰法規ノ刑名ヲ變更シタル以上ハ其期間金額ヲモ變更シテ刑法ト同一ナラシムルコト當然ナルカ如シト雖モ此ノ如クスレハ却テ錯雜ヲ生シ當初ノ立法ノ本旨ヲ沒却スル虞アルカ故ニ刑名ノミハ之ヲ變更スルモ刑期金額ハ之ヲ變更セサルコトトセリ隨テ刑法施

行後ハ刑法以外ノ刑罰法規中ニハ短期ヲ一月以下ニ定ムル有期ノ懲役又ハ禁錮アリ二十圓以下ノ寡額ヲ有スル罰金アリ十錢以下ノ科料アルモノトス

刑罰法規中單ニ重懲役ニ處ス又ハ拘留科料ニ處スト云フカ如ク規定シ其刑期金額ヲ舊刑法總則ニ讓ルモノアリ又禁錮罰金ニ付テハ長期多額ノミヲ規定シ短期寡額ヲ規定セサルモノアリ例ヘハ二年以下ノ重禁錮ニ處ス二百圓以下ノ罰金ニ處ストノ類ノ如シ明治三十八年法律第六十六號第一條第五條、軍機保護法第一條乃至第三條、治安警察法中ノ罰則、郵便法第四十三條、電信法第三十條、第三十九條、明治二十三年勅令第二百八號第二條ノ如シ右ノ如ク期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ之ヲ舊刑法ニ從ハシメ以テ特別法ノ刑ノ範圍ヲ全然維持スルコトトセリ蓋シ之ヲ刑法ト同一ナラシム

ルハ却テ特別法ニ於ケル罪及ヒ刑ノ權衡ヲ失ハシムルノ虞アレハナリ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

理由 本條ハ前條ト關聯スルモノニシテ前條ニ於テ刑法以外ノ刑罰法規ニ付キ刑期金額ヲ變更セサルカ故ニ其當然ノ結果トシテ其刑罰法規ニ定メタル刑ノ加減ニ付キテモ舊刑法ニ定ムル方法範圍ニ依ラシムルコトトセリ蓋シ刑法ニ於テハ舊刑法ニ於ケル如ク四分ノ一ヲ一等トシテ加減スルニ非スシテ二分ノ一ヲ加減スルヲ以テ之ニ依ルコトトセハ舊刑法ヲ基本トシテ定メタル刑ノ權衡ヲ失フニ至ルヲ以テナリ

本條所謂他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重ス可キ場合ヲ例示スレハ衆議院議員選舉法第九十二條第二項第九十四條市町村會議員選舉罰則第十二條郵便法第四十四條第二項第四十七條第二項第五十二條第二項精神病者監護法第十六條第二項第十七條船員法第七十二條等ノ如シ又他ノ法律ニ定メタル刑ヲ減輕ス可キ場合ヲ例示スレハ軍機保護法第一條第六條第二項爆發物取締規則第九條ノ如シ

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス
爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

理由 本條ハ刑法以外ノ刑罰法規竝ニ其他ノ法令ニシテ舊刑法ノ規定ヲ援用シタルモノニ付テハ其舊刑法ノ規定ヲ之ニ相當スル刑法ノ規定ニ變更スルコトヲ規定セリ

他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケタル場合ヲ例示スレハ民法第八百十三條第四號軍機保護法第八條戒嚴令第十一條辯護士法第五條第二號等ノ如シ

他ノ法律中舊刑法ニ依ルコトヲ定メタル場合ヲ例示スレハ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ストノ規定(明治三十八年法律第六十六號第六條郵便法第五十五條電信法第四十一條參照)刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ストノ規定(明治二十二年法律第三十四號第六條爆發物取締罰則第十二條參照)刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ルトノ規定(蠶病豫防法第二十二條第二十三條第

二項鐵業法第九十九條第二項、煙草專賣法第六十二條參照刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ストノ規定(郵便法第五十條、電信法第三十四條參照刑法ニ照シテ罪ヲ以テ論ストノ規定(明治二十二年法律第三十四號第五條參照刑法第六十九條ノ例ニ依リテ處斷ストノ規定(船員法第六十八條參照)ノ如シ

他ノ法律中舊刑法ノ規定ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ヲ例示スルハ刑法ノ輕減、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キストノ規定(遠洋漁業獎勵法第十六條、鐵業法第一百二條、煙草專賣法第六十四條、船舶検査法第十一條第一項參照)刑法數人共犯ノ例ヲ適用セストノ規定(船舶法第二十九條參照)ノ如シ

爆發物取締罰則第十條ヲ廢止シタルハ同條ハ舊刑法第八十條ノ例ヲ用キサルコトヲ規定スルカ故ニ別段ノ定ナキトキハ本條第一項ノ適用ヲ受ケ刑法第四十一條ノ例ニ依ラサルコトト爲リ十二歲以上十四歲未滿ノ者ヲ所罰スルニ至ルヲ以テナリ該罰則第十條但書ノ規定アルモ之ニ從ヘハ十二歲以上十四歲未滿ノ者ニ付テハ是非ノ辨別ナキトキニ限り刑法第四十一條ヲ適用スルノ結果ト爲リ年齡ノミヲ標準ト爲シタル刑法ノ趣意ニ反スルニ至ルヘシ故ニ此法則ハ全然之ヲ廢止シ總テノ場合ニ於テ刑法第四十一條ニ依ラシムルコトトセリ

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

理由 前條ニ所謂他ノ法律中舊刑法ノ規定ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於テ其舊刑法ノ規定カ之ニ相當スル刑法ノ規定ニ變更セラレタルトキハ其結果トシテ舊法ノ刑カ新法ノ刑ニ變更セラレ其罪ニ對スル刑ノ範圍擴張セラルコトト爲ルヘシ此場合ニ於テ他ノ法律中更ニ刑ノ加重又ハ減輕ニ關スル特別ノ規定ヲ設ケタルトキハ第二十一條ヲ適用セス特別ノ措置ニ出ルコトヲ規定ス例ヘハ郵便法第五十一條ノ如ク刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フト規定シ船員法第六十九條第一項第七十條ノ如ク刑法各本條ニ照シ一等ヲ加フト規定スルカ如キ場合又工場抵當法第五十條、鑛業抵當法第十一條ノ如ク刑法第四百十七條乃至第四百二十三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減スト規定スルカ如キ場合ニ於テ本條ノ適用アリ

右加重ノ規定アル場合ニ付テハ刑法ハ加重スヘキ行爲ノ存スルコ

トヲ豫見シ其場合ヲモ包含セシメ刑ノ長期ヲ定ムルカ故ニ更ニ加重スルノ必要ナキモノト認メ全ク之ヲ適用セサルコトトセリ減輕ノ規定アル場合ニ付テハ刑法ハ減輕スヘキ場合ヲ豫見シテ刑ノ短期ヲ定メタルモノト認ムル能ハサルカ故ニ之ヲ適用シ且刑法ノ加減例ニ從フコトト爲セリ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

理由 明治二十二年法律第二十八號ヲ廢止シタル理由ヲ考フルニ其第一條及ヒ第二條前段ハ官吏侮辱罪ヲ廢止シタルニ因リ之ト共ニ當然之ヲ廢止スヘク又同第二條後段乃至第五條ハ刑法傷害罪及ヒ公務執行妨害罪ノ規定アルカ爲メ別段ノ規定ヲ要セサルニ因リ之ヲ廢止スヘキモノナリ

明治二十三年法律第九十九號ハ一般法タル刑法竊盜罪ノ規定ニ對シ特別法ノ關係ヲ有シ之ヲ存續セシムルトキハ屋外竊盜ノ行爲ニ對シ刑法ノ竊盜罪ノ規定ヲ適用スルヲ得サルニ因リ新法ノ本旨ヲ貫ク爲メ之ヲ廢止セリ

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内

刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

- 一 第二編第三章第五節
- 二 第九十八條乃至第二百條
- 三 第二編第四章第七節及ヒ第九節
- 四 第二編第五章第三節
- 五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

理由 刑法ハ本條ニ掲クル舊刑法ノ犯罪ニ付テハ其規定ヲ特別法ニ譲リ法典中ニ其規定ヲ設ケス然ルニ此特別法ノ規定ハ未タ設ケラレサルカ故ニ本條ニ掲クル舊刑法ノ規定ノ效力ヲ存セシメタリ然レトモ其規定ハ特別法ノ規定トシテ效力ヲ有セシムヘキモノナルカ故ニ本條第二項ニ於テ刑法第八條ノ規定ヲ準用シテ刑法ノ總則ニ依ラシメ又本法中他ノ法律ニ關スル規定ヲ準用シテ他ノ特別法ト同一ノ法則ニ從ハシム即チ本法第十九條第二十條ノ如キ規定ハ當然之ニ準用セラルルヲ以テ其定ムル所ノ刑ハ總テ刑法ノ刑名ニ變更セラルルモノトス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二一條ノ例ニ從

フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 徴兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
- 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪
- 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
- 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
- 九 戸籍法ニ掲ケタル罪
- 十 郵便法ニ掲ケタル罪

十一 舊刑法中印紙ノ偽造變造及ヒ其知情使用ニ
關スル罪

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從

フ

- 一 著作権法ニ掲ケタル罪
- 二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪
- 三 移民保護法ニ掲ケタル罪

理由 第二十六條及ヒ第二十七條ハ刑法第二條及ヒ第三條ヲ補充シ
タルモノナリ刑法施行前ニ於テハ判決例ノ認ムル所ニ基キ帝國外
ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑法ノ罪タルト特別法ノ罪タルトヲ問ハス
帝國臣民ノ犯シタルモノハ總テ之ヲ處罰スルヲ得ヘキモノト爲シ

タルモ刑法施行後ハ刑法第一條乃至第四條ノ規定アルカ爲メニ特別法ニ付テモ從來ノ解釋ヲ下スコト能ハス即チ帝國外ニ於テ特別法ノ罪ヲ犯スモ刑法第二條乃至第四條ノ如キ規定ナケレハ之ヲ處罰スルコト能ハサルニ至レリ故ニ第二十六條及ヒ第二十七條ハ刑法ノ趣旨ニ從ヒ特別法ノ罪ニ付キ刑罰法規ノ土地ニ關スル適用ノ範圍ヲ規定シ刑法ノ規定ヲ補充シタリ

第二十六條及ヒ第二十七條ニ掲クル特別法中ノ犯罪ニハ帝國外ニ於テ犯スコトヲ得ルモノト然ラサルモノトアリ本條ノ規定ハ其中帝國外ニ於テ犯スヲ得ヘキ罪ノミニ適用セラルヘキハ論ヲ俟サル所ナリ

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲

メ變更セララルコトナシ

理由 本條乃至第三十一條及ヒ第三十三條乃至第三十七條ハ刑罰法規ニ關スル規定ニ非スシテ人ノ資格又ハ手續等ヲ定メタル法規ニ關スルモノナリ故ニ本條乃至第三十一條及ヒ第三十三條乃至第三十七條ニ於テ指定スル他ノ法律ハ第十九條乃至第二十三條及ヒ第三十二條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ト異ナリ刑罰法規ニ非スシテ人ノ資格又ハ手續等ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ重罪、輕罪、違警罪ノ區別ヲ其標準ト爲シタル各法令ノ規程ナリ而シテ刑罰法規ニ付テハ本法第十九條ニ依リ其定ムル所ノ刑名ヲ刑法ノ刑名ニ變更スルモ本條ニ於ケル他ノ法律ニ付テハ此ノ如キ變更ヲ加ヘス刑法施行後ニ於テモ亦其施行前ニ於ル如ク舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル法規ヲ其儘存續セシメ之ヲシテ人ノ資格其他ノ事項ヲ定ムル標準

タルノ效力ヲ有セシム此ノ如ク此等ノ法則ニ於テハ舊刑法ニ定メタル事項ニ法律上ノ效果ヲ付スルコトト爲ルヲ以テ新刑法施行後其間ニ調和ヲ保ツノ必要アリ故ニ本條ノ定ムル他ノ法律ノ適用ニ關シテ第二十九條乃至第三十一條、第三十三條乃至第三十六條ノ規定ヲ要スルニ至ルモノトス

第二十九條以下ニ於テハ刑法ニ於テ既ニ廢止セル重罪、輕罪、違警罪ノ區別及ヒ剝奪公權、停止公權ヲ存スルカ如キ規定ヲ爲スト雖モ是レ刑罰法規ニ關シ之ヲ存スルニ非ス人ノ資格又ハ手續等ヲ定メタル法規ニシテ舊刑法ノ刑名罪別ヲ其資格ノ得喪又ハ手續ノ差異等ノ標準ト爲スモノニ關シ其適用ヲ失ハサラシムルカ爲メニ其效力ヲ保タシムルニ過キス
人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ

法律ハ第二十九條以下ノ理由中ニ之ヲ例示ス

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

理由 本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ裁判所構成法第六十六條第一號、辯護士法第五條第一號、外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法第二條第二號、市制町村制第九條、徵兵令第二十一條、刑事訴訟法第五十八條、第四百十二條ノ如シ更ニ説明ヲ加フレハ裁判所構成法第六十六條第一號ニ依レハ重罪ヲ犯シタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セララルコトヲ得ストアリ刑法施行後ニ於テハ本條ノ定ムル死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者ハ右規定ノ適用ニ依リ判事又ハ檢事ニ任セララルヲ得サルノ趣

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス
前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス
前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス
理由 本條第一項ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ例示ハ前條ニ同シ本

條第二項ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ刑事訴訟法第五十八條及ヒ第七十五條ノ如シ第三項及ヒ第四項ニ關スル例頗ル多シクダクダシケレハ之ヲ略ス

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

理由 本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ刑事訴訟法第二百十四條第一項但書違警罪即決例第一條ノ如シ

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

理由 本條ハ刑法施行前ニ公布シタル舊刑法以外ノ刑罰法規ニ於テ定メタル重罪ノ未遂犯ヲ刑法施行後ニ於テモ處罰セシメンカ爲メ

ノ規定ナリ舊刑法ハ其第一百十三條第一項ヲ以テ重罪ノ未遂犯ハ必
ス之ヲ處罰スルコトト爲シタルヲ以テ舊刑法以外ノ刑罰法規ニ於
テハ重罪ノ刑ヲ定ムルモ未遂犯ニ關スル規定ヲ爲サスシテ舊刑法
第五條ニ依リ同第一百十三條第一項ニ依ラシムルコトトセリ然ルニ
刑法ハ第四十四條ニ於テ未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ
定ムルコトトシ此規定ハ同第八條ニ依リ刑法以外ノ刑罰法規ニモ
亦適用セラルルカ故ニ別段ノ規定ナケレハ刑法施行後ハ特別法ニ
定ムル重罪ニ付キ未遂罪ヲ處罰スル能ハサルニ至ル是ヲ以テ舊刑
法ノ重罪ノ刑ニ相當スヘキ六年以上ノ自由刑及ヒ死刑ニ該ル罪ニ
シテ特別法ニ定メタルモノハ其未遂罪ヲ處罰スルコトトセリ

**第三十三條 死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮
ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法**

ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

理由 本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ第二十九條ノ適用ヲ
受クヘキ他ノ法律ノ規定ト異リ人ノ資格等ニ關シ重罪ヲ犯シタル
コトヲ標準トセスシテ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトヲ標準ト爲シ
タルモノナリ例ヘハ徵兵令第八條官吏恩給法第十二條第一項醫師
法第二條第一號ノ如シ

**第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ
刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權
ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス**

前項ノ規定ハ復權ヲ得タルモノニハ之ヲ適用セス

理由 本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ民法第九百八條第三

號第七十四條第三號、民事訴訟法第三百十條第三號、第七百九十二條第三項、刑事訴訟法第二百二十四條第四號、所得稅法第十四條第四號、船舶職員法第六條第一號ノ如シ

本條第一項ノ適用ヲ受クヘキ者ニハ刑法施行後刑法ニ依リ死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ト刑法施行ノ前後ニ於テ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者トアリ刑法施行前ニ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ本法第十八條ノ適用ニ依リ附加刑トシテノ剝奪公權ハ其效力ヲ失フカ故ニ本條ヲ適用スルノ必要アリ又刑法施行後ニ於テ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處スル者ニハ本法第五條ニ依リ附加刑トシテ剝奪公權ヲ附加セサル故ニ本條ヲ適用スルノ必要アリトス
本條第二項ハ舊刑法ノ附加刑タル剝奪公權ニ因リ一旦喪失シタル

公權ヲ復セラレタル者ニハ本條第一項ヲ適用セサルコトヲ定メタルモノニシテ第一項ニ對スル當然ノ制限ニ外ナラス

第三十五條

六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス
六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

理由 本條第一項ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ民法第八百十三條第四號ノ如シ又本條第二項及ヒ第三項ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ民法第十七條第五號衆議院議員選舉法第十一條第四號商業會議所法第十條第三號醫師法第三條等ノ如シ

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

理由 本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ市制町村制第九條第二項北海道會法第五條第三號官吏恩給法第十二條第二項第二號官

吏遺族扶助法第十六條第二項辯護士法第五條第三號ノ如シ
本條ノ適用ヲ受クヘキ者ノ中ニ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ加フル理由ハ第三十四條ニ於テ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ付キ説明シタル所ヲ參照セハ自ラ明白ナリ
本條ニ於テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做スカ故ニ刑法第二十三條第二項ノ定ムル拘禁セラレサル日數ノ間ハ勿論公權ヲ停止セラレタルモノト看做サレ又刑ノ執行猶豫ノ場合ニ於テハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過スルマテ又犯人ヲ逮捕スル能ハサルカ如キ場合ニ於テハ時効完成スルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做サルルモノナリ明治三十九年法律第五十四號ハ本條ノ規定アルカ爲メ無用ニ歸スルヲ以テ本法第五十九條ヲ

以テ之ヲ廢止セリ

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

理由 本條ハ他ノ法律中人ノ資格ヲ定ムルニ當リ舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定存スルカ爲メ之ニ重複シテ規定ヲ設ケサルモノアルニ由リ刑法施行後其效力ヲ存續セシムル爲メ之ヲ設クルコトヲ必要トスルモノナリ例ヘハ重罪ノ刑又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ舊刑法ノ規定ニ依リ當然官吏ト爲ルノ權ヲ奪ハレ且現

任ノ官職ヲ失フヘシ而シテ官吏ノ資格ヲ定ムル法則ニハ之ト重複シテ同一ノ規定ヲ爲サス然ルニ刑法ハ舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ如キ規定ヲ設ケサルヲ以テ若シ本條ノ如キ法則ヲ定メサルトキハ法律改正ノ結果トシテ元來資格ヲ有セシムヘカラサル者ヲシテ之ヲ享有スルコトヲ得セシムルニ至ルヘシ即チ懲役又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者官職ヲ有シ官吏タルノ資格ヲ有スルコトト爲ル可シ仍テ右ノ如ク人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ爲ササル場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ效力ヲ存セシメ他ノ法律中人ノ資格ニ關スル規定ノ趣旨ヲ完タカラシムルノ必要アリ例ヘハ裁判所構成法第七十三條會計検査院法第六條第二項及ヒ行政裁判法第五條ニ於テハ判事會計検査官行政裁判所評定官ハ刑法ノ宣告アルニ非サレハ其意ニ反シテ免職退官又ハ非職ト爲ル

コトナキヲ規定スルモ如何ナル刑ノ宣告ニ因リテ其職務ヲ失フヘ
キヤハ之ヲ定メスシテ全ク舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規
定ニ讓リタルモノナリ故ニ是等ノ規定ニ關シ右ニ示シタル舊刑法
ノ規定ノ效力ヲ存セシムルコトトセリ

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ

完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮
ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ

付テハ七年

- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金
ニ該ル罪ニ付テハ三年
 - 五 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ一年
 - 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月
- 第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク
改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事
件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判
所檢事ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク

改ム

九〇

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人
又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ
職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取
扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス
可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中「刑法第
百八十條ニ從ヒ罰金ヲ四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ
改メ同條第二項中「罰金ヲ罰金又ハ科料」ニ改ム
同法第三百三十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ
「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第四百十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改
ム

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如
ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シ
タルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム
第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對
シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪」ノ
ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改

九二

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ檢事ノ請求アルトキ亦同シ
被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所

書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得

ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限

ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神

喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒

ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩

後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコ

トヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左

ノ一項ヲ加フ

懲役禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ

一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ

停止スルコトヲ得

一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞ア

ルトキ

三 受胎後七月以上ナルトキ

四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ

下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次

ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第一百六十八條、第一百七十三條及ヒ第一百七十四條但書ハ之ヲ削ル

理由 第三十八條乃至第五十一條ハ刑法ヲ實施スルニ必要ナル程度

ニ於テ刑事訴訟法中ノ規定ヲ改メタルモノナリ

第三十八條ニ於テハ刑事訴訟法第八條ニ定メタル公訴ノ時効期間ニ關シ改正ヲ施セリ蓋シ本法第二十九條乃至第三十一條ノ規定アルカ故ニ刑事訴訟法第八條ヲ改メサルモ其適用ニハ妨ナシト雖モ

刑事訴訟法第八條ニ定メタル期間ハ刑法第三十二條ニ定ムル刑ノ時効期間ニ比シ權衡ヲ失スルヲ以テ之ニ變更ヲ加ヘタルモノナリ又本條ニ付キ特ニ經過規定ヲ設ケサリシ所以ハ刑法施行前ニ犯シタル犯罪ニ付キ公訴ノ時効ノ問題ヲ生シタルトキハ新舊二法中時効ヲ完成ニ至ラシムヘキモノヲ適用スヘキコト當然ニシテ經過規定ヲ以テ之ヲ解決スルノ必要ナキニ因ル公訴ノ時効ヲ以テ刑罰權消滅ノ原由ト爲ストキハ其理由洵ニ明白ニシテ別ニ説明ヲ與フルノ要ナシ

第三十九條ヲ以テ刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ改メ第五十一條ヲ以テ同第六十三條ヲ削リタルハ裁判所構成法第十六條ノ一ノ改正アリタルカ故ナリトス

第四十條ヲ以テ刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ改メタルハ刑法

第三百三十四條ニ符合セシメンカ爲ナリトス
 第四十一條ヲ以テ刑事訴訟法第二百六條及ヒ第三百三十八條ヲ改メタルハ刑法ニ於テ舊刑法第七十九條及ヒ第八十條ニ相當スル規定ヲ設ケサリシカ爲ナリトス罰金ヲ罰金又ハ科料ニ改メタルハ新舊二法罰金刑ノ寡額ヲ異ニスルニ因ル
 第四十二條乃至第四十六條及ヒ第五十一條ヲ以テ刑事訴訟法中重罪公判及ヒ輕罪公判ノ名稱ヲ廢止セリ然レトモ重罪事件ニ付テハ豫審ヲ求ムヘキ旨ヲ定メタル刑事訴訟法第六十二條ノ規定重罪事件ニ付テハ開廷前豫備訊問ヲ爲シ又辯護人ヲ付スヘキ旨ヲ定メタル同第二百三十七條ノ規定及ヒ輕罪トシテ受理シ又ハ判決シタル事件ヲ重罪トシテ取調フルトキハ受命判事ヲシテ其取調ヲ爲サシムヘキ同第二百四十一條第二百六十四條ノ規定等ニ付テハ仍ホ重

罪事件又ハ重罪ナル名稱ヲ存セリ是等ノ規定ニ付テハ本法第二十九條ノ適用アルモノトス

第四十七條ヲ以テ刑事訴訟法第三百十七條第二項トシテ規定シタルモノハ舊刑法第九十五條ニ代ルヘキモノナリ本項ニハ監獄ニ於テ執行スヘキ二個以上ノ主刑ノ執行云々トアルヲ以テ勞役場留置ハ本項ノ適用ヲ受ケスシテ檢事ニ於テ適宜其執行ヲ指揮ス可キモノトス又舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ對スル執行ニ關シテ舊刑法ノ刑ノ輕重ヲ定ムルニハ本法第十三條ニ從ヒ刑法ノ規定ニ準據ス可キモノトス本項但書ノ必要ハ假出獄許可等ニ付キ便宜アルカ故ニ存ス例ヘハ定役刑ト不定役刑ト共ニ執行ス可キ場合ニ於テ其受刑者ニ對シ假出獄ヲ許サントスルトキ定役刑ノ刑期三分ノ一ヲ執行シタル後其執行ヲ停止シ不定役刑ノ刑期三分ノ一ヲ執行シ假

出獄ヲ許スコトヲ得セシムルノ便宜アリ本項但書ナケレハ定役刑ノ全部ヲ執行シ終リタル後不定役刑ノ刑期三分ノ一ヲ過クルニ非サレハ假出獄ヲ許ス能ハサルニ至ルヘシ重キ刑ノ執行ノ停止ハ必スシモ重キ刑ノ執行中ニ指揮セララルルヲ要セス検事ハ初メヨリ其執行ヲ停止シ直チニ輕キ刑ノ執行ニ著手セシムルノ指揮ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第四十八條ヲ以テ刑事訴訟法第三百十八條ノ二ヲ設ケタルハ刑法附則第一條第二條ニ代ルヘキ規定ヲ爲シタルニ過キス之ヲ刑事訴訟法中ニ規定シタルハ刑事訴訟法第三百二十一條ト牽聯スルカ故ナリトス

第四十八條ヲ以テ刑事訴訟法第三百十八條ノ三ヲ設ケタルハ舊刑法第十五條及ヒ刑法附則第五條ニ代ルヘキ規定ヲ爲スト同時ニ死

刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキ其執行ヲ停止スヘキ旨ヲ定メ在來ノ規定ニ存スル缺陷ヲ補ヒタルモノナリ

第四十九條ヲ以テ刑事訴訟法中ニ刑ノ執行ノ停止ヲ認メタルハ法ノ缺陷ヲ補ヒタルモノナリ

第五十條ハ刑事訴訟法第三百二十條ヲ改正シ刑ノ執行ノ停止ノ指揮ヲ刑ノ執行ト同シク検事ノ職權ニ屬セシメタリ外國ノ立法例中刑ノ執行ニ著手スル以前ニ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ検事ノ職權ニ屬セシメ之ヲ訴訟法中ニ規定シ刑ノ執行中其執行ヲ停止スル場合ヲ他ノ職權ニ屬セシメ之ヲ監獄法中ニ規定スルモノアリ然レトモ我國ニ於テハ刑ノ執行ニ著手スル以前ニ其執行ヲ停止スル場合ナルト刑ノ執行中其停止ヲ爲スヘキ場合ナルトヲ區別セス共ニ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ検事ノ職權ニ屬セシメ之ヲ訴訟法中ノ規定ト

セリ

第五十條ヲ以テ刑事訴訟法第三百二十條中ニ罰金等ノ徵收ニ付テ強制執行ノ手續ヲ用フルヲ得セシメタルハ刑法第十八條ニ依リ罰金科料ニ付テハ之ヲ完納スルコト能ハサルトキニ限り勞役場ニ留置スルヲ得ルモノトシ自ラ強制執行ノ手續ヲ爲サシムルノ趣旨ヲ包含スルカ爲メナリ

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

理由 恩赦ハ大權事項ニ屬スルヲ以テ刑法中ニ之ヲ規定セス同一ノ理由ニ據リ刑事訴訟法中ニ其規定ヲ存スルノ謂レナキヲ以テ之ヲ削除シタリ

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ

依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ
前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

理由 刑法第五十二條及ヒ第五十八條ハ新規定ニシテ刑事訴訟法中ニ關スル手續ヲ定ムル法則ナキヲ以テ其缺陷ヲ補足シタルモノナリ

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ

之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ

抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

理由 刑ノ執行猶豫ノ言渡ニ關シ手續ヲ改メタル主要ナル部分ヲ案スルニ此言渡ハ必ス刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ爲シ且此言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシト定メタル點ニ在リ刑ノ言渡ト同時ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲サシムルハ刑法第二十七條ニ定ム

ル執行猶豫ノ言渡ノ效果ヨリ生スル當然ノ結果ナリ即チ條件付刑ノ言渡タルノ趣旨ヨリ出ルモノナリ上訴ニ依リ效力ヲ失ハサラシムルハ當然ノ規定ニシテ舊法ノ如キ變則ヲ存續セシムルノ必要ヲ認メサルニ依ル其他新ニ設ケタル規定ハ第五十五條第二項及ヒ第五十六條第一項ナリ第五十五條第二項ニ依レハ上訴裁判所ニ於テ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得上訴審ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ト同時ニ執行猶豫ノ裁判ヲ爲シ得ヘキハ第五十四條ノ趣旨ニ依リ明白ナリ上告裁判所カ上告棄却ノ判決ヲ爲ストキト雖モ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ議論ヲ免レヌ法律取調委員會ニ於ケル討議ノ結果ニ就テ見レハ積極ニ答フルヲ至當トスルカ如シ第五十六條第一項ニ依リ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ裁判所トシテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ裁

判所ノ外最後ノ住所地ノ裁判所ヲ加ヘタルハ所在地ノ不明ト爲ル場合ヲ慮リタルニ因ルモノナリ最後ノ住所地ハ生活ノ本據ノミヲ指スモノニ非ス其不明ナル場合アルヘキヲ以テ最後ノ居所地ヲモ含ムト解スルヲ至當トス

第五十八條ニ依レハ明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス即チ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ未タ其判決確定セサル者ニ付テハ本法第五十五條ヲ適用スルヲ得ヘク又既ニ確定シタル者ニ付テハ刑法第二十六條第二十七條ヲ適用スルヲ得ヘシ而シテ舊法時代ニ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ既ニ猶豫ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ本條ノ適用ナク隨テ刑法第二十七條ニ依リ其利益ヲ享クルコト能ハサルヘシ是レ本法第十八條第一項

ニ於テ既ニ徵收シタル附加罰金ヲ還付セサルト均シク既濟ノ處分ニ溯及シテ效力ヲ變更セサルノ趣旨ニ出タルモノナリ

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

理由 第三十六條ノ理由ヲ參照スヘシ

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲スコシ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里

ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、
受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルト
キハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃
至一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事、又ハ裁判所
之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非
サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿
料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ
本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技

能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金
額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連滯負擔トス

理由 第六十條乃至第六十七條ハ專ラ訴訟手續ニ關スル規定ニシテ
刑法附則ノ廢止ニ因リ其必要ヲ見ルニ至リシモノナリ

第六十條ハ刑法附則第六十一條ニ代ルヘキ規定ニシテ第六十二條
乃至第六十六條ハ刑法附則第四十八條乃至第五十二條ニ代ルヘキ
規定ナリトス舊規定ヲ改メタルハ旅費、止宿料ノ額ヲ増加シ且受託
判事ニ於テ給與ノ額ヲ定ムルコトヲ得セシメタル點ニ在リ

第六十一條ハ舊刑法第四十八條ニ代ルヘキ規定ニシテ第六十七條
ハ同第四十七條ニ代ルヘキ規定ナリ

刑法施行法參考書終

明治四十一年六月十一日印刷
明治四十一年六月十四日發行

刑法施行法參考書與附

定價 金五拾錢

司法省民刑局編纂

發行者 江草重忠

東京市神田區一ツ橋通町七番地

印刷者 白土幸力

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三光堂

東京市神田區美土代町二丁目一番地

東京市神田區一ツ橋通町七番地二、三號地

(電話本局三三三番)

有斐閣書房

東京市神田區一ツ橋通町七番地四、五號地

有斐閣雜誌店

東京市本郷區森川町一番地

有終閣書房

發行所
賣捌所
賣捌所

禁漢譯
不許
複製

新刊

法學士泉二新熊先生著

改正 日本刑法論

總論各論
全一册
紙數千二百餘頁

上製背革金文字入 ● 定價金參圓五拾錢 ● 小包料金拾六錢

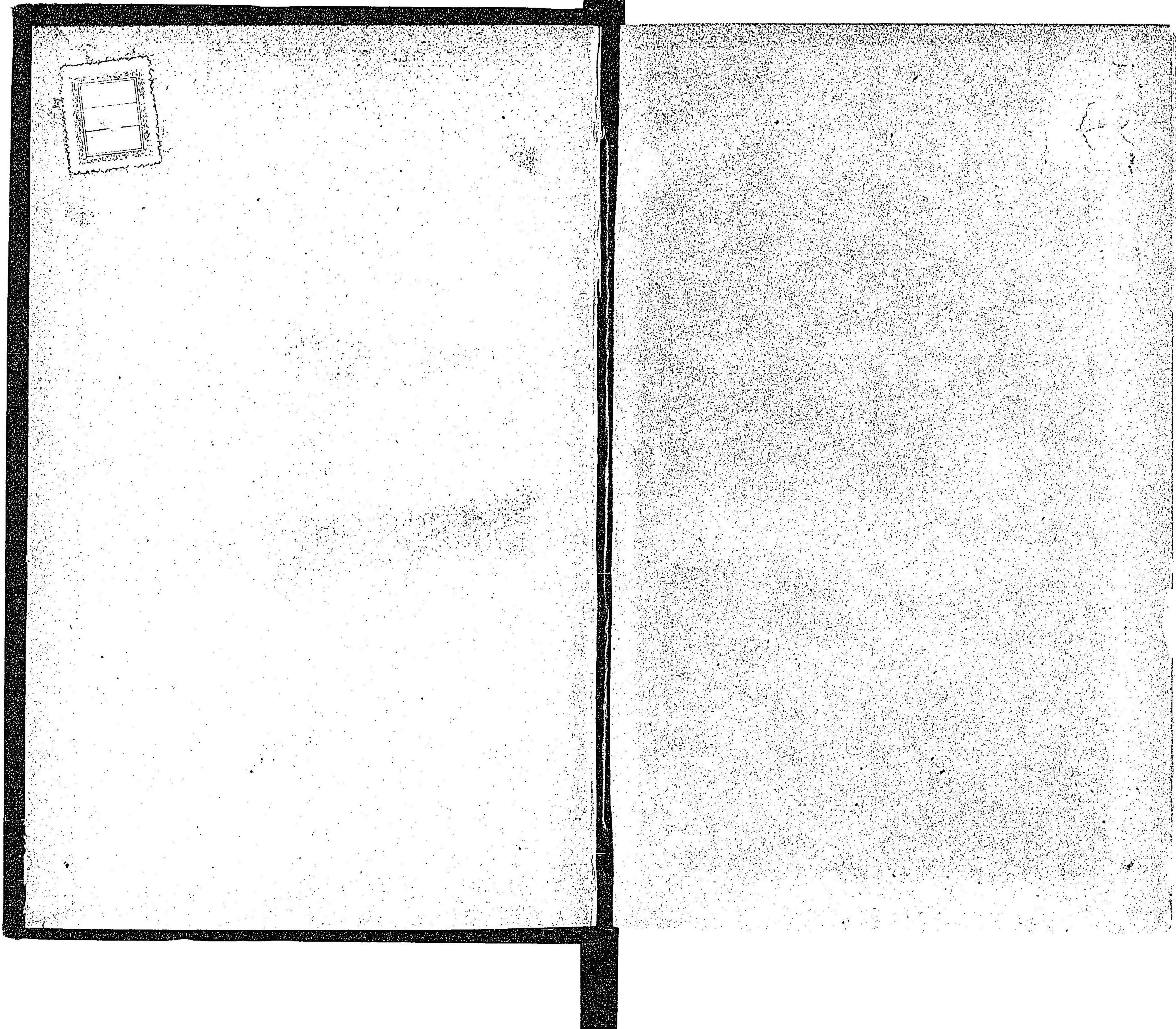
發行所

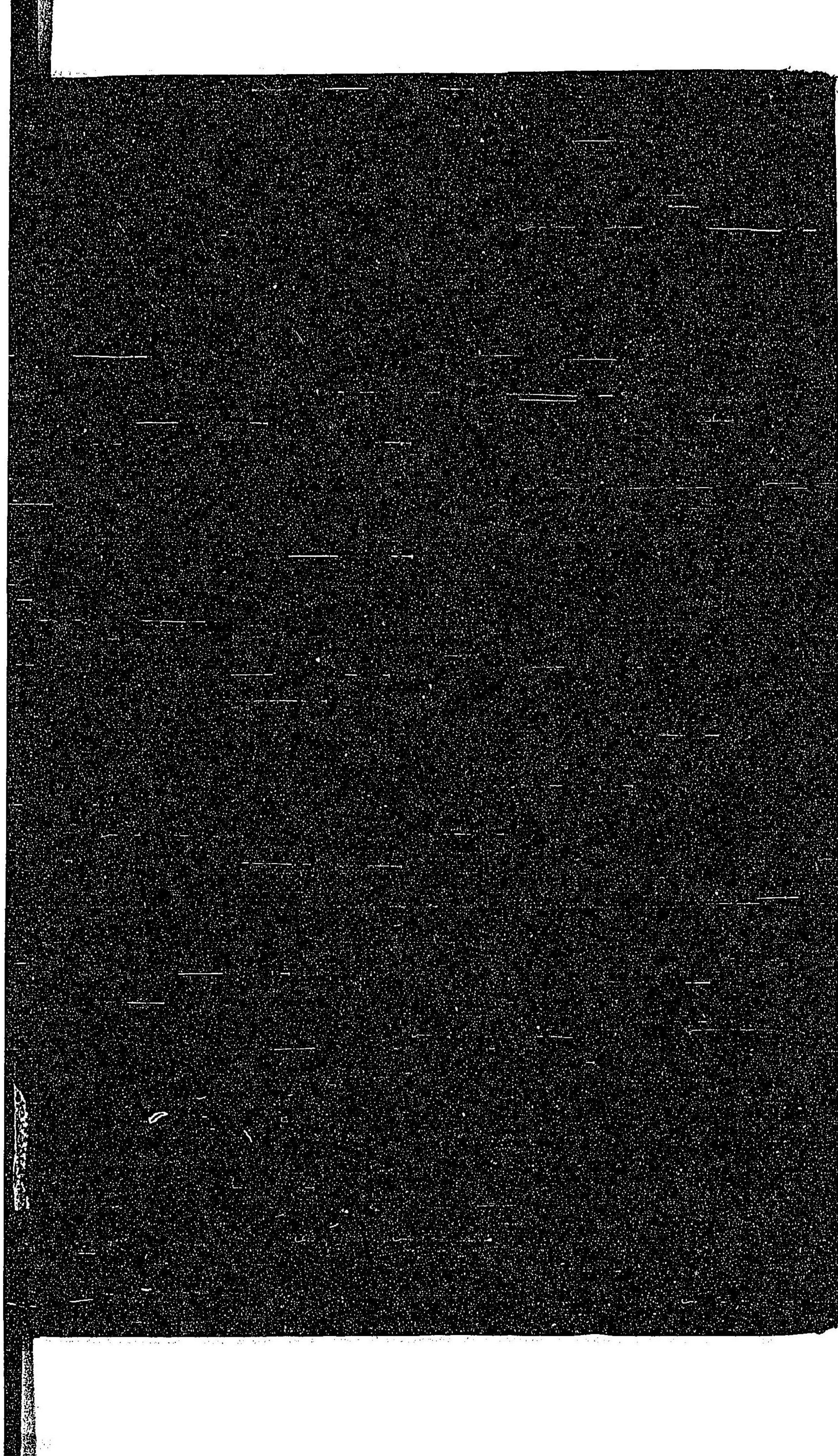
東京神田一ツ橋通町七番地
(電話本局三三二三番)

振替貯金口座
三百七十番

有斐閣書房

新刊





90
268

035753-000-5

90-268

刑法施行法參考書

司法省民刑局／編

M41

BBP-0337



